

# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://niigata-ksk.sakura.ne.jp>

会長 稲田 春男  
事務局 伊藤 明德  
会報編集 大場 勲

TEL 025-270-9427

**県境の山  
大境山山行**

日本山岳会越後支部  
松井 潤次

(日時)

2023年5月21日(日)

登山普及委員会計画の山行に参加した。

当日は各団体から33名と大勢の参加者があった。

道の駅「せきかわ」に7時集合、分乗で山形県小国町の登山口へ向かう。

途中、県道脇に多くの車が駐車しておりワラビ園の観光客で賑わっていた。

中田山崎登山口の路側帯に駐車し、4班編成で8時前に出発する。

バス停脇から堰堤に向けて歩き出す。両岸に架けられた梯子を足場に堰堤下を渡渉する。増水時は要注意だ。

しばらく、コンクリート板で覆われた水路に沿って進み、林の中に入って沢沿いに歩くと尾根に取り付く。急登が始まる。

飯豊山塊は稜線に上がるまでは、どの支尾根も傾斜が強く、大境山も辛抱強い登行が続く。

標高600mを越えようと傾斜が増し、足場が崩れやすい箇所もみられ頻繁に落石のコールがかかる。

緊張感をもって登るが、時折足元に咲くイワウチワヤイワカガミなど早春の花たちが目を楽しませてくれありがたい。2時間ほどで、標高850mの県境尾根に取り付いた。残雪の上でしばしの休憩をとり息を整える。

一旦、新潟県側をトラバースして尾根に戻り、山頂を目指す。

視界は開け、残雪の飯豊本山から主脈の山々の展望に歓声があがる。

11時半頃に二等三角点のある山頂に全員立つことができた。

記念撮影後、頂上直下の広い尾根で昼食とする。

飯豊本山から杵差岳まで山座同定して眺望を堪能する。

下山は往路を辿るが、急傾

斜の箇所はザイルを固定し安全を確保してリーダーの指示のもと各自慎重に下降した。3時間ほど下り、15時ころ登山口に全員無事下山できた。参加者皆さんの健脚ぶりに感嘆した。

大変お疲れ様でした。また、安全確保のため状況に応じてのザイルワークの必要性を実感しました。

メンバ―…新潟ランタン会…渡辺茂、君清 柏崎山岳会…廣井博行、金子佳一 新潟山岳会…知野勇人



## 加盟団体の山行から 重蔵山(1036m)

新潟ランタン会  
渡辺 茂

近くて遠い、朝日スーパードールン東部、県北の藪山

(日時) 2023年5月3日 (水) ～5日(金)

「重蔵山への取組み、ランタン会としての経過」  
当会では平成10年(1998年)、会山行として道の無い藪山、重蔵山を計画し6月10日、2名が調査、その後、6月13日、14日、刈払い協力者を含め9名で実施したが山頂に立つことが出来ず調査で終わった。

その後、6月20日～21日、当会の顧問、代表、二人が登頂、同年10月23日～25日、3名が登頂しランタン会員、総勢5名が山頂に立つことが出来た。

この年は高根集落から平床林道経由で県境近くまで車両の乗り入れが可能な時代であった。

「重蔵山挑戦への経過」

今から25年前に会山行で計画した重蔵山、藪山の好きな私は行きたくても当時47歳で仕事も忙しく休みが取れず、いつかはと考え、平成29年(2017年)11月、4名

(渡辺、君、滝沢、大石)でバチ山分岐まで調査、樹々は落葉し尾根筋をはっきりと見ることが出来、これなら行ける、大丈夫と甘く見ていた。

その後、山仲間で藪山が話題になり、藪山に興味のある3名が参加したいとの連絡があり、2021年7月2日スーパライン合流点でテント泊、翌日、山頂を目指すことにしたが、標高940m付近から複雑な地形で県境線を基本通りと考察したが、県境線がパタリと切れているところの通過である。

秋と緑豊かな7月では全く別世界であり、前方が見えない密敷では先に進むことが出

来ずここで敗退とした。

「今回、立つことが出来なければ諦めることで再度の挑戦であった」県境へのスーパライン車両乗り入れは水害や土砂崩れなどにより、近年は7月中旬以降にしか車が入れず、そうなると山は密敷となることから今回は5月の晴れ間を見て実施することにした。

5月3日(水)高根集落ゲート10時/鈴ヶ滝分岐10時30分/平床橋10時55分/竣工記念碑11時35分/駒ヶ岳登山口12時25分/スーパライン合流点13時05分/鳴海金山13時45分/県境付近14時30分(テント泊)

(距離15・2km 歩行時間4時間30分) 林道が開通すれば登山道の無い山々は密敷に覆われ登頂は難しくなる。林道歩きを覚悟の上の実施である。

高根集落でメンバーが合流し2台の車両で平床林道に向かったが直ぐに鎖で遮断され歩きとなる。重いザックを背

負い、ゆっくりと舗装道路歩き、駒ヶ岳登山口で休憩、この駒ヶ岳は円錐形の岩稜帯あり、短時間で登れることから山友を連れ3回ほど登っている。山頂からの眺めも良く円錐形でどこから見てもすぐに解る山である。

この辺から道路脇に残雪が出て来た。さらに進み朝日スーパライン分岐からは道路もブナ林も豊富な残雪であつた。途中の鳴海森林公園東屋付近で「熊」発見、とうとう熊の領域に入った。道路脇にはどうぞ食べて下さいと言わんばかりの沢山の「ふきのとう」である。今夜のつまみに少し採取した。奥深い山であることを痛感する。こんな山登りは久々である。森林公園のトイレを過ぎると兜の型をした重蔵山がどんと居座ってその背後に枳形山が聳えている。

過去に大鳥池から化穴山に登った際に無理して重蔵山まで行っていけばと振り返った。ようやく鳴海金山を過ぎると今日の泊場、県境から500

m手前をテント場とした。早速テント設置し明日の登頂を祈り軽い宴とした。

5月4日(木)テント場4時00分/917m5時05分/979m5時40分/930mバチ山分岐6時50分/940m7時30分/814m8時45分/山頂10時45分/940m/14時15分/バチ山分岐5時05分/テント場18時30分(テント泊)



(重蔵山と左奥は枳形山)

今日の核心部は標高940

m付近からのルート工作である。複雑な地形で県境線を基本通りとするが沢筋を進むか、飯説の2つのルートを考察し現地判断とした。

3時起床、今日は残雪の未知の世界、最悪の場合、ピバーク覚悟で装備品、食料をザックに詰め、早々に朝食を済ませヘッドライトを点け予定した4時出発とした。早速、

赤布付けながら尾根突入、尾根上にはイワウチワが咲き、樹々は新芽が出た状態、落ち葉を踏みながら足元は秋の状態でも歩きやすい。標高979m直下は雪に覆われ雪面歩きができ、時間短縮と楽々と登ることが出来た。この辺から雪堤と藪尾根を繰り返して進むと標高930mのバチ山分岐となった。

分岐のピークは膝ほどの低木で、すばらしい展望台である。正面に重蔵山、枳形山、背後にさきほど来の山々。南に鋭い三角形の鷲ヶ巣山、北には雪を覆った月山など。ここからは踏み跡なく松が生え

ている藪尾根を掻き分け、潜りながら進むと岩稜帯となり、鞍部は切れ落ちていて、足場を確かめて降りて登り返して上がったところが、標高940mの県境線とぎれのピークである。

ピークから下部が見える所まで10分ほど降りると沢筋に雪渓を見ることが出来た。

雪渓は重蔵山直下まで続いているように上部は急斜面である。尾根ルートを見ると地図で見ると距離が長いように感じた、また、尾根通しでは更に一泊は間違いない。

一番効率の良い急斜面の雪渓を降りて尾根筋まで登り、雪渓のトラバースと雪堤歩き、尾根歩きを繰り返して、邪魔なイヌツゲを掻き分け進むとようやく標高814mに着くことが出来た。

急斜面の高い猛藪登りは半端でない。ここからは県境尾根をたどることになるが利用できる雪堤はなるべく利用し最後となる雪渓で水作りの準備をしてザックを残置、空荷でアタックするが、この最後

の急斜面の密数が今回の核心部であった。尾根に登りきると岩場の台地が現れ低木の藪となった。

山頂はすぐそこだ。ここからの藪は気にならず真つすぐ進むと傾いた三角点の標石があった。10時45分山頂到着。

この山頂に立つのに計画してから6年を要してしまった。

重蔵山はスーパラインの石碑のある広場から見ても県境尾根のどこから見ても北側が高く、南側が低い台形に見える。最高点は北端であるが三角点は頂稜部の真ん中に置かれていた。

記念写真を撮り下山を開始するが、ここで事故を起こせばヘリの要請しかない。安全第一を肝に命じ慎重に下山し18時30分テント場に到着することが出来た。

帰着後はいつものように少ない飲み物でカンパイ、明日は降りるだけ9時頃まで反省会が続くぐつぐつと眠ることができた。

5月5日(金) テン場6時00

分ノ鳴海金山7時00分ノスーパライン合流点7時30分ノ駒ヶ岳登山口8時15分ノ竣工記念碑8時50分ノ平床橋9時30分ノ鈴ヶ滝分岐10時00分ノ高根集落ゲート10時45分(距離15・2km 歩行時間4時間45分)

4時起床、今日は安堵の気持ちでお湯を沸かし、お茶、コーヒーを飲み、ラーメン雑炊で朝食をとり6時下山開始途中で「ふきのとう」を頂き、のんびり歩きで高根集落ゲート11時前に到着し、お昼は高根集落、山のおいしさ学校食堂I R O R Iでそば定食を食べ解散、充実の三日間であった。

もう二度と登ることは無い



(重蔵山山頂)

と思うが、もし登るなら4月末ノ5月初旬の残雪のある時期、標高940mからピッケル、12本アイゼンを持参し山頂直下まで雪渓をつめれば楽に行けるように感じた原生の重蔵山であった。



(スーパラインから、背後が重蔵山)

加盟団体会員の山行から  
West Highland Way  
ウエストハイランドウェイ  
154kmを歩いて  
映彩山岳会  
木村 昌克

2023年5月21日～6月3日  
5月21日、新潟を出発し羽田空港で前泊、22日の飛行機

**WEST**  
OUTDOOR LIFE STORE  
新潟 / 三条 / 長岡 / 上越

でロンドンで乗り換えグラスゴーに着いたのは深夜となった。  
5月23日、9時過ぎの電車に乗り、Milingvieムルガイに到着。  
いよいよウエストハイランドウェイのスタートだ！  
マップ、食料、ガスを買って水も詰め込む。ガスはレギュラー1300円もする！サンドウィッチも具が多いと800円だ！ お決まりの出発写真を撮り10時にスタート。



今日はDrymenドライメンまでの18km。街を抜けると牧草地となり、その中の道を進む。少し起伏もあるが歩きやすい道で花が綺麗だ。

15時40分キャンプ場に到着し、料金1800円支払う。ビールはあるかと尋ねたら、2km先の街まで行かないと無いよ！と笑顔で返される。まずはテントを張り、どうする家康とばかりに思案するがここはやはり「出陣じゃ」と関の声をあげる。しばらく歩いてると2人連れのおっさんキャンパーがコンビニの袋を抱えて戻ってくる。こっち方面の情熱は万国共通なのだ実感する。

5月24日、今日はBalmahaバルマハの先のキャンプ場迄の15km。途中、コニックヒルという360mの丘を越えて行くのだが、缶ビール3本ワイン1本が加わり、ずっし

りと重いザックを担いで8時に出発する。

なんとか丘を越え、イギリス最大の湖であるローモンド湖沿いのキャンプ場に15時に到着。

ぬるいシャワーを浴びてビール、ワインを飲んでいると、グラスゴーから来た若者達がやってきてたどたどしい会話となった。



5月25日、朝食の後撤収を始めるが、Midgeミッジというブヨよりも小さいアブが血を吸いにまとわりつく。こいつにはこれから散々に悩まされる事となった。

今日はローモンド湖沿いに22kmほど先のInversnaidインバーズナイド迄だ。

樹林帯は心地良いが、抜けると陽射しが強く汗だくになる。湖沿いなのでアップダウンもそれ程無いのが救いだ。キャンプ場のあるバンクハウスには18時に到着。ネットを張りめぐらした休憩スペースで夕食とビール&ワイン。バンクハウスにはバーがあり、宿泊している人達の賑やかな声を聴きつつ10時就寝する。

5月26日、6時に起床、荷物をまとめだす。が、パスポートを入れたウェストバッグが無い！

寝る前にトイレに入ったので慌てて建物のトイレに駆け込むと、ありました！場所が場所だけに運が良かったのでした。

9時に出発する。その際に日本語で「気をつけてね」や「さよなら」との声を掛けられる。今迄の道中、抜いたり抜かれたりで顔見知りとか、しょうゆ顔で一筆書きのような自分の顔はすぐ覚えれるのだろうか？

20km先のCriannichクリアンリッチを目指す。途中でスコットランドの正装であるキルトスカートの若者と出

会う。しばらく歩いて行くとローモンド湖と別れ、いよいよスコットランド高地(ハイランド)へ向かう事となる。Benjias Farmジョーイングラスファームでお昼とビールを楽しむ。先程のキルトの若者と記念撮影。オランダから来たそうだ。

更に20年前に4年間日本に仕事で住んでいましたという親子連れのお父さんに話しかけられる。上高地から北アや富士山を楽しんだそうだ。

場所はルートに10kmほど進んだ「yndrunティンドラムで、ランチパックも付けて11000円。



クリアンリッチへはルートを外れて1・6km下った小さな町で、まずはコンビニでビールや食料を買い込む。店の人にキャンプ場は何処かと尋ねたところ、キャンプ場

は無いよとの答え。マップの記号はキャンプ場では無くユースホステルだったのだ。テント3連泊なのでユースも良いなあと思いい、空いていたらとトライしたが満室。野宿かあと思ったが、コンビニのオバサンにB&B(ベッド&ブレイックファースト)は無いかと尋ねてみた。

4軒目の電話で1室空いているとの事で、奥さんが「大丈夫、うちの旦那に送らせるから」と有難いお言葉！

朝も夕方も運のよい1日で、洗濯をしてふかふかのベッドで熟睡しました！

5月27日、8時にスコティッシュブレックファースト。ランチパックを受け取り9時半に出発。今日の目的地Bridge of Orchyブリッジオブオーキー迄は10kmちょいと最短距離の一日だ。

国道と線路と並行した単調な道となり、一層暑さを感じ

てくる。ホテルに15時過ぎに到着し、先ずはビールだ。混んでおり女性の単独者とおっちゃんと同じテーブルでやはりビールだ。女性はドイツからで、おっちゃんはイングランド。2人ともテント泊だ。その間にも顔見知りが続々と到着して声を交わす。

2人は4kmほど先のInveroran Hotelインバーランホテル迄行ってテントと言っていたが、こちらは橋のたもとの芝生にさっさとテントを張ってまったりと過ごす。



5月28日、4時頃に寒さで目を覚ます。かなり冷え込んだようので今迄が一番寒い。樺太の北端よりも北なのだから当然と言えば当然なのだ。

7時に出発。今日はKinross Houseキングスハウス迄の20kmだ。途中の売店でサンドウィッチとジュースを購入し、

先を急ぐ。この辺りからスコットランド高地の景色が広がって来る。日本には無い景観だ。

途中でキングスハウスはシャワーが無いから手前のGlancee Mountain Resortグレンコーマウンテンリゾートの方が良いと言われ、迷わず変更。グレンコー渓谷はハイランドエリアの中でも屈指の観光名所であるとともに、1692年にスコットランドの氏族間で、虐殺事件があり、その悲劇の舞台となった渓谷としても有名。因みに、グレンコーはスコットランドの言語ゲール語で「嘆きの峡谷」という意味。



5月29日、撤収準備に取り掛かるが、ミツジがまとわりついて凄く！ ちよつとでも気を許すとすぐに喰い付いて

くる。今日はKinlochlevenキンロックレーベンまでの16kmだ。朝日を受けたグレンコーが美しい。

しばらく国道沿いに進むと、このルート最大の難所と言われているDevil's Staircaseデビルズステアケース「悪魔の階段」という登りに差し掛かる。けれども、道は広くてジグザクとなっており、傾斜も大した事はなく、ゆっくり登って最高地点でコーヒープレイク。ハイランドらしい景観が広がり、快晴の絶景を堪能する。



15時過ぎにキンロックレーベンに到着。先ずはパブでビールだ！ あまりにも旨そうに(うんまげに)飲んでいたら、隣の年配グループに笑われて話しかけられた。イングリッドから来たそう

で、イギリス国旗の折り紙をプレゼントしたら滅茶苦茶喜んでくれた。

コンビニで食料とワインを買い込みキャンプ場に戻る。シャワーを浴びてスッキリし、残るは後一日だという気の緩みがあったのだろう。ハムとチーズをツマミに調子こいて1本空けてしまった。テントに戻り爆睡！ だったが夜中に寒くて目が覚めた。なんと、シユラフに入らず寝てしまった。



5月30日、起きると喉が痛く鼻水が出て、これからずっとティッシュペーパーが離せなくなってしまう。ゴールのFort Williamフォートウィリアム迄の25kmを鼻水をすすりながらひたすら歩く。18時過ぎに街に入りB&Bを探



すがどこも満室で野宿となる。5月31日、今日はイギリス最高峰のBen Nevisベンネビス1345mに登るので、重いザックを草むらに隠していたら、なんとロビン達と再び遭遇。

6時に登り始めるが、ピッチが上がない。街からだと海拔0mなので、実質まるまるの標高だ。10時過ぎに頂上に到着。20年ぶり3度目の頂上だ。長かったトレッキングもこれで完遂だあとと思うと感慨深いものがあるが、体調は最悪で鼻水たらしながら下山を開始。予約していたホテルで爆睡し、翌日電車でグラスゴーに戻り、6月3日夕方に無事帰国。なんかかんやでしたが、人とのふれあいを楽しんだ旅

でした。



加盟団体の山行から

五百山(716m)

むすびび会  
遠藤 家之進正和

新緑を楽しみゆつくり登りたいと、6月の山行を長岡東山連峰の一角にある五百山に出かける。

栖吉から真木林道を走り、鋸山登山口の大入峠を越え、半蔵金へ下り始める。

左手に、五百山から大平山山麓に広がる棚田への農道がある。ここが登り口になる。

五百山は鋸山の北東に位置し、大平山に続く。五百山は716mで農道入口が570mなので標高差150mの登りである。

眼下に半蔵金集落を見、奥

には三本樺山から談合山と続き、その奥には唐松山、上権現堂山が見える。

その後方には越後三山の雄姿が眺められるのだが、あいにくの雨模様で霞んでしか見ない。

曇りを予想していたのあいにくの雨模様。久々の雨具着用の山行だねと言いながら雨に霞む五百山を見ながら農道を進む。すぐに鞍部に着き、左手に鬼倉山、右手に五百山の登山口に着く。

登山道に入るとすぐにブナ林が広がる。まだ若木が多いが気分良い場所だ。雨で足早になるが、ここはゆつくりと眺めながら歩きたいところだ。静かだ。雨がブナの樹皮を流れている。筋が縞模様となっている。水を貯え、大地を潤しているということが分かる。

稜線への登りが始まる。入山者も少ないのだろう、登山道はフラットだ。落ち葉で乾いているところは滑らないが、濡れているところは要注意だ。急登を登りきると、若葉が鮮

やかなイワカガミ群落の尾根に出る。両脇ブナ林で展望はきかなく隣の鬼倉山も樹間から眺めである。ネマガリタケもあり、時期が合えばタノコも収穫でき、春の味を楽しめる。平坦な道を進み、急登を登りきるとの山頂に出る。

山頂は広くはなく、北の方面が開けているだけで、標高を記した標柱があり、一角に北斗星石碑があるので確認してみたい。本来なら大平山を眺めながら懇談したいのだが、あいにくの雨模様、ブナの下で昼食時間とした。今回は五百山往復であったが、鬼倉山と合わせての山行も良いし、大平山まで足を伸ばして棚田を眺めるのも1日を楽しめる。木々も新緑が濃くなったが、芽ぶきが始まる残雪期に訪れるのも推奨したい。

登山には適度な山で、他の人に会うことも無く、静かです。人知れずひっそりとした。興味のある良い山でした。

登山には適度な山で、他の人に会うことも無く、静かです。人知れずひっそりとした。興味のある良い山でした。



今後の行事予定

・第68回弥彦山たいまつ登山祭  
7月25日(火)

・北信越国体  
7月29日(土)～30日(日)  
(会場)CAMP4(新潟市)

編集後記

加盟団体の山行で紹介された「五百山」山行に筆者も参加しました。

記事に詳述のとおり、曇天に時折小雨が降る程度の天候で、ブナ林が爽やかでした。

登山には適度な山で、他の人に会うことも無く、静かです。人知れずひっそりとした。興味のある良い山でした。

会報編集委員会からのお願いです。

新山協ニュースに掲載して欲しい記事が有りましたら、遠慮無く担当までお知らせ下さい。よろしくお願いたします。

(大場 勲 記)

登山・ハイキング・クライミング  
テレマーク&山スキー

パーマーク  
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)  
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

食に寄り添い、心を通わす。  
Alongside your cuisine and your life.  
HAKKAISAN

[www.hakkaisan.co.jp](http://www.hakkaisan.co.jp)